

# よみがえれ地方語

◎14◎

船津 好明

## 沖縄の実用地方語の発展条件 ②

つぎは、話体(言葉遣い)の選択に関する原則を守ることである。日本語は英語などに比べて、同じ内容のことを云うにも話し相手によって話体を異にするのを通例とする。目上、同格、目下など相手によって言い直しを変えるのが特徴で、これを無視するとトラブルを起す。これは言葉が話者の意思を伝えるだけでなく、言葉の授受に人間関係を不可分視する社会的慣習があるためである。

重視している。もし、話体を無視して話すならば、直ちに不和をきたし、相手に傾聴されない。結局、国語のような共通の言葉が用いられるようになり、地方語は出番を失う。

沖縄の実用地方語の衰退は話体の選択を自在にできる人の減少をも意味する。逆にいえば、実用地方語の繁栄は話体の選択が自在である人の増加によるものでなければならぬ。

ないから、各語がその語圏の母語となっていてるわけである。不便なことだが、どれか一つの語に強制統一する場合に生ずる問題を考えれば、現状の方がましなのである。

現在の沖縄は地方語に堪能な人が減少し、地方語を知らない人が増加しているが、また一方で、地方語がある程度はできるが各話体を使いこなす自信がない、というような人も少なくないようだ。そういう人はこの際、地方語を見直し、みずからを洗練するならば、話体の選択にも新たな自信が湧いてくるに違いない。

現在の沖縄は地方語に堪能な人が減少し、地方語を知らない人が増加しているが、また一方で、地方語がある程度はできるが各話体を使いこなす自信がない、というような人も少なくないようだ。そういう人はこの際、地方語を見直し、みずからを洗練するならば、話体の選択にも新たな自信が湧いてくるに違いない。

つぎは地域差を理解することである。沖縄の地方語と一口にいても、沖縄の中で更に地域による言語差がある。そしてその差は地域によって小差から大差までいろいろな段階がある。

地域文化の振興は本来当該地域の人々の努力によるべきものである。よってどの地域の人々も自分の文化を大切に考えるのは当然のことである。このことは言語差のある地域の人々に相互の理解と尊重を促すことになる。自分の言葉のみを正当とし、他を不当視すると必ず紛争が起きる。要は他地域の言語を尊重しながら、自己の言語を大切に努力をするのが真の発展を導くものである。

こういう慣習は古い時代に形成されたものだが、現在でもなお根強く生きている。しかし、人格尊重の思想の進展とともに、人間の上下関係と話体とのかかわりは発展的に変化しつつあることもまた事実である。

沖縄の地方語の話体は、歴史的にみると年齢の違いや男女等によって定形のようなものがある程度見受けられるが、近代感覚を以っていい換えるならば、要するに和を保つ話体を選べ、ということになる。いかなる話体を選ぶかは、話の授受に当たる当事者の人間関係によってきまってくる。

言語の地域差の問題は世界レベルでも一因レベルでも存在する。各国の言語は国ごとに小差のものもある。小差のものは互いに他の方言であるかの感さえ抱かせる。世界の言語差をなくそうというのなら皆エスペラント語を使えばよいのだが、現実には母語勢力の強い語圏ほどエスペラント語の勢力は弱いようである。一因レベルの言語差についてはスイスがよい例になると思う。スイスには四つの言語があつて、それぞれの語圏を作っているが、共通語が

前回的基本的マナーと今回の話体と地域差の件は、いずれも間違えばその度に地方語の出る幕が減り、共通語が幅を利かすことになるが、人々の英知を以てすれば、間違いをなくし、各地方語が共に発展しうることは世界の例が示すところである。

この点英語などとは違う。沖縄の地方語についても同様に、その歴史的文化的特質から話体の選択を一層

このことは昔から変わっていないと思う。

このことは昔から変わっていないと思う。

このことは昔から変わっていないと思う。

このことは昔から変わっていないと思う。

このことは昔から変わっていないと思う。

このことは昔から変わっていないと思う。

このことは昔から変わっていないと思う。